

ぶっばん お仏飯

「いのち」をつなぐ

お寺やお家のお内仏では、お朝事あさじのあとに、お仏飯そなを備えます。お仏飯は「いのち」をつなぐ源ですから、まずは、み仏様にお仏飯をお備えます。ここを、はじまりにしましょう。はじまりとおわりは大切です。

食前と食後の言葉に込められた意味

食前の言葉

ひかり
み光のもと われ今さいわいに

きよ しく
この浄き食をうく

いただきます

食後の言葉

われ今 この浄き食をおわりて

ゆた ちから 身
こころ豊かに 力身にみつ

ごちそうさまでした

食前と食後の言葉の「浄き食きよき しく」は、「いのち」をいただくことで「いのち」をつなぐことの意味が込められています。また、食前には、「幸い」に食しょくをいただけるありがたさが謳うたわれています。そして、食後にも「浄き食きよき しく」をいただいて、「いのち」をつなぐことができた感謝を述べることでおわります。

出典 幡谷淳信「三月教案」供養
(『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳)
リライト “サガエさん” こと佐賀枝夏文